

令和4年度

## 青森県立高等学校入学者選抜学力検査の結果

学 校 教 育 課  
総合学校教育センター

青森県教育委員会は、令和4年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査を3月8日(火)に実施し、7,324人が受検した。

学力検査の実施教科、検査時間は、国語と英語が50分、数学、社会、理科が45分であり、配点は、各教科とも100点満点で、国語には16点、英語には27点の放送による検査問題が含まれている。

各教科の受検者全体の得点は、下の得点一覧表に示す結果となった。平均点を前年度と比較すると、国語が0.7点上回り、社会が12.2点、数学が3.1点、理科が8.1点、英語が9.4点下回った。

なお、学力検査問題は、中学校学習指導要領に示された各教科の内容から、「令和4年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針」に基づいて出題されている。

以下、各教科ごとに、受検者の誤答傾向と問題別正答率について述べる。

得点一覧表

得点区分	国語		社会		数学		理科		英語	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
100	0	0.0	6	0.1	44	0.6	14	0.2	15	0.2
90～99	322	4.4	262	3.6	365	5.0	345	4.7	442	6.0
80～89	1,383	18.9	794	10.8	769	10.5	738	10.1	750	10.2
70～79	1,961	26.8	1,085	14.8	947	12.9	1,012	13.8	890	12.2
60～69	1,660	22.7	1,200	16.4	972	13.3	1,255	17.1	968	13.2
50～59	1,042	14.2	1,152	15.7	978	13.4	1,325	18.1	1,004	13.7
40～49	556	7.6	1,047	14.3	957	13.1	1,093	14.9	1,028	14.0
30～39	255	3.5	831	11.4	889	12.1	802	11.0	924	12.6
20～29	102	1.4	537	7.3	709	9.7	469	6.4	841	11.5
10～19	29	0.4	313	4.3	485	6.6	228	3.1	407	5.6
0～9	11	0.2	94	1.3	206	2.8	40	0.5	52	0.7
0(再掲)	2	0.0	3	0.0	8	0.1	2	0.0	3	0.0
全教科受検者数	7,321	100.0	7,321	100.0	7,321	100.0	7,321	100.0	7,321	100.0
平均点	67.5		55.6		53.1		56.9		54.0	
標準偏差	15.4		21.2		23.8		20.2		22.9	
最高点	99		100		100		100		100	
最低点	0		0		0		0		0	
前年度平均点	66.8		67.8		56.2		65.0		63.4	

\* 得点一覧表の各教科の値(%)は、全教科受検者に占める得点区分ごとの受検者の割合を表したものである。小数第2位を四捨五入しているため、人数が0人でなくても0.0%になる場合や合計が100%にならない場合がある。

## 国 語

①の放送による検査は、生徒会役員会の話し合いを資料を見ながら聞き、内容や意見の述べ方について捉える力、聞き取った内容をもとに、条件に即して適切に表現する力をみる問題である。(1)は、「動画の特徴」について聞き取る問題であり、正答率は9割を超えた。(2)は、「さまざまな人にわかりやすい動画にするために大切なこと」について聞き取る問題であり、正答率は約6割であった。具体的な内容を踏まえていないために減点されているものが多かった。(3)は、意見の述べ方について聞き取る問題であり、正答率は約9割であった。(4)は、「学級旗」を使って新聞の見出しを書く問題であり、正答率は約9割であった。話の中心部分と付加的な部分に注意して、要点を整理しながら聞き取る力を伸ばしていくことが重要である。

②は、漢字の問題である。(1)の読字の正答率は約9割であり、誤答として、オ「かえり(みる)」を「こころ(みる)」、「かんが(みる)」などと読んだものが多かった。書字の正答率は約7割であり、誤答として、キ「忠誠」を「忠誓」、「忠政」などと書いたものが多かった。(2)は、文の中で用いられている漢字と同じ漢字が使われている熟語を選ぶ問題であり、正答率は約9割であった。文脈に合わせて正確に意味を判断し、適切な漢字を用いる力を養うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることが引き続き大切である。

③は、『笑林(しょうりん)』からの出題である。(1)は、漢文のきまりに従って返り点をつける問題であり、正答率は約7割であった。訓読に必要な基礎的な事項を理解する力を高めることが必要である。(2)は、文脈における主語に当たる人物を選ぶ問題であり、正答率は約8割であった。(3)は、文章に表れているものの見方や考え方を理解し、『韓非子(かんぴし)』の文章と共通する内容を選ぶ問題である。『韓非子』のみに当てはまる内容である「3」を選んだ誤答が多く、正答率は約6割であった。複数の文章を比較したり、関連付けたりする力や、文章全体の内容を捉える力をより高めることが重要である。

④は、樋口桂子(ひぐち けいこ)の『日本人とリズム感』からの出題である。(1)は、動詞の活用形を見分けて連用形を選ぶ問題であるが、未然形である「3」を選んだ誤答が多く、正答率は約4割であった。(2)は、文章の展開に即して内容を捉え、「ヨーロッパのリズムの方向」についてまとめる問題であり、正答率は約5割であった。(3)は、文章の展開に即して内容を捉え、「水平方向」と同じ内容の語句を答える問題である。日本人の動きについて表現している別の部分を抜き出した誤答が多く、正答率は約4割であった。(4)は、文章の展開に即して内容を捉え、この文章について述べたものとして適切なものを選ぶ問題である。論理の展開を正確に捉えられていない誤答が多く、正答率は約3割であった。(5)は、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、「日本人の身体の型」についてまとめる問題である。与えられた三つの語句を用いていないものや、語句の用い方が文脈に即していないために減点されているものが多く、正答率は約3割であった。文章に表れているものの見方や考え方について、書き手の論理の展開に即して適切に読み取る力を伸ばしていくことが重要である。

⑤は、八束澄子(やつか すみこ)の『ぼくらの山の学校』からの出題である。(1)は、慣用句についての理解をみる問題であり、正答率は約7割であった。(2)は、表現の効果を理解して内容を捉える問題であり、正答率は約7割であった。(3)は、文章の展開に即して内容を捉え、空欄に適する語句を抜き出す問題であり、正答率は約9割であった。(4)は、文章の展開に即して登場人物の心情を理解し、「口にできなかった」という表現についてまとめる問題であり、正答率はアが約7割、イが約9割であった。(5)は、文章の

内容を捉えて、「『ぼくはただ黙って』における『ぼく』の気持ち」についてまとめる問題であり、正答率は約3割であった。「動かなくなった」、「傷ついた」など、「弱さ」に相当する記述が不足しているために減点されているものが多かった。(6)は、文章の展開に即して内容を捉え、登場人物の人物像として最も適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約5割であった。文章の構成や展開、表現の仕方について考え、登場人物の言葉や行動に着目しながら文章を読むことが大切である。

〔6〕は、資料から読み取った情報をもとに、意見文を書く問題である。「国語に関する世論調査」の結果をまとめたグラフから読み取った情報をもとに自分の意見を書き、それを踏まえて意見の理由を書く、という条件に即して論理的に文章を書く力が求められる。読み取った情報のみを書いて自分の意見を書いていなかったり、理由の説明が不十分であったりしたために減点されているものが多かった。資料から必要な情報を読み取り、読み取った情報と自分の意見を整理してまとめることが大切である。

国語では、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、文章の構成や展開、表現の仕方に注意して内容を正確に捉える力や、条件に即して適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 国語

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)							
1	(1)	4	放資料を聞き取って	話の内容と資料との関連を考えて聞き取る。	95.2	4	説明的文章を読む	(1)	4	品詞について理解する。	34.5			
	(2)	4			話の内容を的確に聞き取る。			54.5	(2)	4	文章の展開に即して内容を捉える。	50.6		
	(3)	4			話の全体と部分との関係に注意して聞き取る。			92.3	(3)	4	文章の展開に即して内容を捉える。	34.7		
	(4)	4			発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる。			85.6	(4)	4	文章の展開に即して内容を捉える。	27.0		
2	ア	1	読	常用漢字を読む。	不屈	95.6	4	文学的文章を読む	(1)	4	慣用句について理解する。	66.4		
					激励	92.0			(2)	4	表現の効果を理解して内容を捉える。	71.2		
					剥製	79.9			(3)	4	文章の展開に即して内容を捉える。	89.4		
					溶かす	99.9			(4)	ア	2	文章の展開に即して内容を捉える。	65.6	
	イ	1	書	学年別漢字配当表の漢字を書く。	顧みる	68.9	イ	2	文章の展開に即して内容を捉える。	忠誠	44.2	6	文章に表れているものの見方や考え方を捉えてまとめる。	30.8
					素質	81.3				6	文章に表れているものの見方や考え方を捉えてまとめる。			30.8
					補修	52.2								4
					招く	91.4				(5)	6			
	ウ	1	字		除く	81.2	10	を意見文を書く	資料から読み取った情報をもとに、自分の意見を書く。	平均点	6.1			
					裂	98.2								
	エ	1	字		趣向	78.7	10	を意見文を書く	資料から読み取った情報をもとに、自分の意見を書く。	平均点	6.1			
					裂	98.2								
	オ	1	字		趣向	78.7	10	を意見文を書く	資料から読み取った情報をもとに、自分の意見を書く。	平均点	6.1			
					趣向	78.7								
カ	1	字		趣向	78.7	10	を意見文を書く	資料から読み取った情報をもとに、自分の意見を書く。	平均点	6.1				
				趣向	78.7									
キ	1	字		趣向	78.7	10	を意見文を書く	資料から読み取った情報をもとに、自分の意見を書く。	平均点	6.1				
				趣向	78.7									
ク	1	字		趣向	78.7	10	を意見文を書く	資料から読み取った情報をもとに、自分の意見を書く。	平均点	6.1				
				趣向	78.7									
ケ	1	字		趣向	78.7	10	を意見文を書く	資料から読み取った情報をもとに、自分の意見を書く。	平均点	6.1				
				趣向	78.7									
コ	1	字		趣向	78.7	10	を意見文を書く	資料から読み取った情報をもとに、自分の意見を書く。	平均点	6.1				
				趣向	78.7									
ア	2	知識		漢文の中で用いられている漢字と同じ漢字が使われている熟語を選ぶ。	98.2	10	を意見文を書く	資料から読み取った情報をもとに、自分の意見を書く。	平均点	6.1				
				漢文のきまりに従って返り点をつける。	69.8									
イ	2	知識		漢文の中で用いられている漢字と同じ漢字が使われている熟語を選ぶ。	98.2	10	を意見文を書く	資料から読み取った情報をもとに、自分の意見を書く。	平均点	6.1				
				漢文のきまりに従って返り点をつける。	69.8									
3	(1)	4	漢文を読む	漢文のきまりに従って返り点をつける。	69.8	10	を意見文を書く	資料から読み取った情報をもとに、自分の意見を書く。	平均点	6.1				
	(2)	4		文脈における主語に当たる人物を捉える。	80.2									
	(3)	4		文章に表れているものの見方や考え方を理解する。	63.5									

## 社 会

①は、地図の活用や世界の諸地域の特色に関する問題である。(3)は、面積、人口、GDPの世界の州別割合について、資料を参考にして思考・判断する問題で、正答率は約4割であった。世界各地の自然条件や社会的条件と人々の生活を関連付けて捉えることが大切である。(5)イは、南アメリカ州のほぼ同緯度に位置するキトとマナオスの月平均気温に差がある理由を表現する問題で、正答率は約6割であった。高山地域に見られる気候の特色についての理解が十分ではなかったと思われる。地図や資料を活用する地理的技能を身に付けるとともに、地域的特色を様々な視点から捉えることが大切である。

②は、中国・四国地方、近畿地方、関東地方の地域的特色に関する問題である。(2)は、京都で、店の看板、建物の高さ、デザインなどを規制する条例が定められている理由を表現する問題で、正答率は約8割であった。歴史的な景観や町並みを守るためであることを適切に表現しているものが多かった。(6)は、神戸市で行われた海と山との一体的な開発について、資料を活用して思考・判断し、表現する問題であり、正答率は約2割であった。誤答としては「丘陵地をうめ立ててニュータウンをつくった」という内容のものが多かった。山を切り開き海をうめ立てて都市が整備されたことを、資料から読み取ることができなかったものと思われる。地域的特色を人々の生活や産業などと関連付けて捉えることが大切である。

③は、古代から近世に起こった出来事に関する問題である。(5)は、天保の改革の内容について表現する問題で、正答率は約2割であった。天保の改革における株仲間の解散の目的についての理解が十分ではなかったものと思われる。(6)は、世界の歴史的な出来事を日本の歴史的な出来事と関連付けて思考・判断する問題で、正答率は約6割であった。世界の歴史的な出来事の時代背景についての理解が十分ではなかったと思われる。世界の歴史を背景に日本の各時代の特色を踏まえ、歴史の大きな流れを政治、外交、社会、文化など多面的な視点から捉えることが大切である。

④は、近代から現代までの日本の政治や経済、国際関係に関する問題である。(4)は、関東大震災についての理解をみる問題で、正答率は約4割であった。誤答としては、「第一次世界大戦」や「阪神・淡路大震災」が多く、自然災害と戦争被害の区別や、自然災害が起きた年代についての理解が十分ではなかったと思われる。(5)は、満州事変の後に起こった出来事を年代の古い順に並べかえる問題で、正答率は約4割であった。昭和初期から第二次世界大戦までの日本の政治や外交の動きについての理解が十分ではなかったと思われる。近代、現代については、身近な生活と歴史的事象との関わりに着目しながら、時代の特色や移り変わりを捉えることが大切である。

⑤は、日本国憲法や地方自治の特色に関する問題である。(3)は、地方公共団体の首長について述べた文として適切でないものを選ぶ問題で、正答率は約4割であった。地方自治の仕組みや住民の権利についての理解が十分ではなかったと思われる。(4)は、地方交付税交付金が配分される目的について、資料を活用して思考・判断し、表現する問題であり、正答率は約4割であった。誤答としては、「地域を発展させる」「税金を平等にする」「町の整備を行う」など多岐にわたった。資料から、自主財源である地方税の収入に格差があることを読み取り、その格差をおさえるために地方交付税交付金が配分されていることを適切に表現することができなかったものと思われる。選挙権年齢が18歳に引き下げられたことを踏まえ、選挙権をはじめとする政治に参加する権利を行使する良識ある主権者として、主体的に政治に参加することについての自覚

を養うことが大切である。

〔6〕は、消費生活や税金の公平性に関する問題である。(5)は、需要量・供給量・価格の関係を表す資料から、商品の価格と需要量、供給量の関係を関連付けて思考・判断する問題で、正答率は約7割であった。(6)は、税金の公平性について表現する問題であり、正答率は約2割であった。誤答としては、「所得に応じて同じ負担になるようにするため」「所得に見合った税を取るため」などが多く、累進課税の方法が採られている直接税との違いについての理解が十分ではなかったと思われる。租税の意義や税制度の基礎について理解するとともに、税の負担者として租税の使いみちや配分の在り方を選択・判断する責任があることなどについて関心を深め、納税者としての自覚を養うことが大切である。

〔7〕は、文化遺産についてまとめた資料から、文化遺産に関連する社会的事象についての地理、歴史、公民の各分野の知識・理解を総合的にみる問題である。(1)は、十字軍についての理解をみる問題であり、正答率は約8割であった。中世ヨーロッパ世界におけるキリスト教徒とイスラム教徒との対立についての理解が十分ではなかったと思われる。(5)は、アイヌ民族支援法におけるアイヌ民族の位置付けについての理解をみる問題で、正答率は約2割であった。誤答としては、「伝統」や「北海道」が多く、アイヌ民族が先住民族として法的に位置づけられたことについての理解が十分ではなかったと思われる。

社会では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、問われている内容を正しく理解した上で、資料から必要な情報を読み取る力、知識や資料を関連付けて、思考・判断したことを適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 社会

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)			
1	(1)	2	世界のタイガ	81.8	4	(1)	2	近代・現代の日本	59.5	
	(2)	2	緯度と経度	61.4		(2)	2	井伊直弼	42.8	
	(3)	3	面積、人口、GDPの世界の州別割合	42.2		(3)	2	明治時代の様子	77.4	
	(4)	2	日本における鉄鉱石の輸入相手国	79.2		(4)	3	富国強兵	42.4	
	(5)	ア	2	バイオエタノール		86.9	(5)	3	関東大震災	41.6
イ		3	マナオスと比べてキトの気温が低い理由	61.3		(6)	3	満州事変の後に起こった出来事の並べかえ	31.6	
2	(1)	2	京浜工業地帯	76.5	5	(1)	A	2	日本国憲法と地方自治の特色	40.5
	(2)	3	京都の条例	82.1			B	2	憲法前文 正当に選挙された代表者	25.7
	(3)	2	京都府が位置する大都市圏	50.8			イ	X	1	憲法第3条 内閣の助言と承認
	(4)	2	ターミナル駅	66.3		Y		1	労働基本権	87.2
	(5)	2	榎田	64.2		(2)		2	表現の自由	86.1
	(6)	4	神戸市で行われた海と山との一体的な開発	22.1		(3)	3	民主主義の学校	34.9	
3	(1)	2	古代・中世・近世の日本	91.2	(4)	3	地方公共団体の首長	39.8		
	(2)	2	大化の改新	71.4	6	(1)	2	消費生活や税金の公平性	66.1	
	(3)	2	荘園	48.4		(2)	2	財	61.1	
	(4)	3	徳政令	51.4		(3)	2	契約	60.1	
	(5)	3	天保の改革	18.2		(4)	2	企業の社会的責任	9.0	
			平安時代に起こった世界の主な出来事	50.6		(5)	3	エンカル消費	73.9	
室町時代に起こった世界の主な出来事			56.4	(6)		3	需要量・供給量・価格の関係	19.7		
(6)	1	江戸時代に起こった世界の主な出来事	58.0	7	(1)	2	税金の公平性	75.4		
A	1	日本			(1)	2	十字軍	75.2		
					(2)	3	イランの家畜頭数	67.7		
					(3)	3	上越市の雨温図	64.6		
					(4)	2	正倉院	21.3		
				(5)	3	アイヌ民族支援法				

## 数 学

①は、基礎的・基本的な知識や技能をみる問題である。(1)の正答率は約8割であり、数と式についての基本的な計算に対する知識・技能は定着しているものと思われる。(2)は、おうぎ形の面積を求める問題であり、正答率は約5割であった。約分が適切にできなかったものと思われる誤答が多く見られた。(3)は、絶対値が最も大きい数を選ぶ問題であり、正答率は約6割であった。近似値で大小関係を正確に把握することができなかったものと思われる。(4)は、 $x, y$  についての連立方程式をつくり、それを解く問題であり、正答率は約6割であった。表にある情報を正確に読み取り、式に表すことができなかったものと思われる。(5)は、関数  $y = ax^2$  について  $x, y$  それぞれの変域から比例定数  $a$  の値を求める問題であり、正答率は約5割であった。 $x, y$  の値をそれぞれ代入して、方程式を正しく変形することができなかったと思われる誤答が多く見られた。(6)は、円周上にある点と円の中心を結んだ線分で作られる角の大きさを求める問題であり、正答率は約6割であった。円周角の定理等を適切に用いることができなかったものと思われる。(7)は、データの散らばり具合を調べる四分位範囲についての理解をみる問題であり、学習指導要領の改訂に伴い、データの活用の領域において新たに学習することになった内容を踏まえたものである。正答率は約5割で、誤答としては、最大値から最小値を引いて求めたと思われる「8回」が多かった。(8)は、根号を使って表した数について述べた文として適切なものを選ぶ問題であり、正答率は約6割であった。平方根の加法と乗法の定義を正しく理解できていなかったものと思われる。

②は、平面図形や確率についての知識や技能を用いて思考・判断し、数学的に処理する力をみる問題である。(1)は、円周上の点における接線を作図する問題であり、正答率は約7割であった。誤答としては、図形の性質を正しく理解できていないものが多かった。(2)アは、生徒の会話を読み取り、適切な数や式、語の組み合わせを答える問題であり、正答率はあが約9割、いが約7割、うが約6割、えが約3割、語の組み合わせが約6割であった。問題とそれに対する会話を正しく読み取れていないと思われる誤答が多く見られた。(2)イは、一次方程式の解が負の整数になる確率を求める問題であり、正答率は約3割であった。誤答は多岐にわたり、さいころの出た目の条件を満たす組み合わせを適切に求めることができなかったものと思われる。

③は、図形について、数学的に考察する過程で見通しを立てて思考・判断し、的確に表現する力をみる問題である。(1)アは、三平方の定理を利用して斜辺の長さを求める問題であり、正答率は約7割であった。点 E, F の位置関係を正しく把握できていないと思われる誤答が多かった。(1)イは、容器の中に入れた水の底面から水面までの高さを求める問題であり、正答率は約3割であった。容器と正四角錐の体積の差から水の体積を正確に求めることができなかったものと思われ、誤答は多岐にわたった。(2)アは、1組の三角形が合同であることを証明する問題であり、正答率はあ及びいが約5割、うが約6割であった。1組の三角形が合同であることを証明する上で、仮定をもとに対応する辺や角を正確に捉えることができなかったものと思われる。(2)イの(ア)は、角の大きさを求める問題であり、正答率は約4割であった。与えられた条件と図を対応させて的確に処理することができなかったものと思われ、誤答は多岐にわたった。(2)イの(イ)は、二等辺三角形の性質を用いて周の長さの差を求める問題であり、正答率は約1割であった。複数の条件を正しく組み合わせ、線分の長さを式で表すことができなかったと思われる誤答や無解答が多かった。図形がもつ性質を多面的に捉える力を育成することが一層求められる。

④は、関数や図形についての知識や技能を用いて思考・判断し、数学的に処理する力をみる問題である。(1)は、点 A の y 座標を求める問題で、正答率は約 8 割であった。符号をつけ忘れたと思われる誤答「4」が多かった。(2)は、直線の式を求める問題であり、正答率は約 5 割であった。直線 に平行であることを正しく理解できていないと思われる誤答が多かった。(3)アは、与えられた条件を適切に捉え、点 S の y 座標を  $t$  を用いた式で表す問題であり、正答率は約 6 割であった。 $x = t$  を代入する式を正しく捉えられていないと思われる誤答や無解答が多かった。(3)イは、四角形 PQRS が平行四辺形になるときの  $t$  の値を求める問題であり、正答率は 1 割を下回った。平行四辺形になるための条件を用いて、 $SR = 4$  として二次方程式をつくることができなかつたものと思われ、無解答が多かった。

⑤は、ある年のカレンダーにおいて、<sup>つき</sup>月の日数と曜日の関係に規則性を見だし、各月の最初の日が何曜日であるかを求めたり、与えられた条件をもとに二次方程式をつくり、誕生日を導いたりする中で数学的な見方・考え方を働かせ、事象を数学的に処理し、解決する力をみる問題である。(1)は、ノートにまとめた内容から読み取ることのできる数を求める問題であり、正答率はあが約 6 割、いが約 3 割であった。表の項目の意味について正しく理解し、適切な数を求めることができなかつたものと思われる。(2)は、5月1日が何曜日であるかを求める問題であり、正答率は約 5 割であった。表の項目 C の内容を理解できなかつたと思われる誤答が多かった。(3)は、7月の最初の日曜日は何日であるかを求める問題であり、正答率は約 4 割であった。7月1日が何曜日であるかを求められなかつたと思われる誤答が多かった。(4)アは、質問した内容の一部を  $a$  を用いた式で表す問題であり、正答率は約 2 割であった。カレンダーにおいてすぐ真上にある数を式で表す際に、7日前と考えられなかつたものと思われ、誤答は多岐にわたり、無解答も多かつた。(4)イは、質問した内容から二次方程式をつくり、誕生日を求める問題であり、正答率は約 2 割であった。条件を満たした二次方程式から得られる解や表の項目等を関連付けて処理することができなかつたものと思われ、誤答は多岐にわたり、無解答も多かつた。資料や質問の内容から必要な情報を読み取って思考・判断し、表現することで、日常生活の中で数学を活用する力を伸ばしていくことが重要である。

数学では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、数や式を形式的に処理するだけではなく、数量や関数、図形、データの活用などに関して基礎となる原理や法則についての理解を深め、筋道を立てて思考・判断・表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 数 学

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	
①	(1)	ア	3	③	(1)	ア	2	
		イ	3			イ	3	
		ウ	3			㊸	2	
		エ	3			㊹	2	
		オ	3			(7)	2	
	(2)	4	図形	おうぎ形の面積	イ	(イ)	3	
	(3)	4	数と式	絶対値	④	(1)	2	
	(4)	連立方程式	2	数と式		連立方程式	(2)	2
		個数	2	連立方程式の解		関数	ア	2
	(5)	4	関数	関数 $y=ax^2$ の変域			(3)	4
(6)	4	図形	円周角と中心角	⑤	(1)	2		
(7)	4	データの活用	四分位範囲		(2)	2		
(8)	4	数と式	根号を使って表した数	⑤	(3)	3		
②	(1)	3	図形		円周上の点における接線の作図	(4)	4	
	(2)	ア	㊸		2	数と式	正負の数の利用と二次方程式	
			㊹		2			
			㊺	2				
			㊻	2				
			番号	2				
	イ	3	確率					

## 理 科

①は、生物・地学分野の小問集合である。(1)アは、タンポポのおしべを図から選ぶ問題で、正答率は約2割であった。誤答としては「D」のがくを選んだものが多く、タンポポの花のつくりを理解できていなかったものと思われる。(1)イは、タンポポの根のつくりと働きについての問題で、、、の正答率はそれぞれ約9割、7割、9割であった。(2)アは、生態系についての理解をみる問題で、正答率は約7割、(2)イは、自然界のつり合いについての問題で、正答率は約9割であった。(3)アは、有色鉱物であるクロウンモを選ぶ問題で、正答率は約6割、(3)イは、花こう岩をつくる鉱物について、結晶が大きくなる理由を記述する問題で、正答率は約6割であった。(4)アは、寒冷前線が通過した日時をグラフから読み取る問題で、正答率は約7割、(4)イは、異なる時刻の空気中に含まれる水蒸気量を小さい順に並べる問題で、正答率は約5割であった。生物や地学的現象についての基礎的な知識は概ね身に付いていると思われるが、これらを基に科学的な見方・考え方を養っていく必要がある。

②は、化学・物理分野の小問集合である。(1)は、塩化ナトリウムと炭酸水素ナトリウムの混合物に含まれていた炭酸水素ナトリウムの質量を求める問題で、正答率は約2割であった。加熱前の質量3.2gから加熱後の質量2.3gを引いて「0.9g」としたものなど、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。(2)アは、亜鉛原子の変化のようすをイオンの化学式を使って表す問題で、正答率は約6割であった。(2)イは、金属の陽イオンへのなりやすさに関する問題で、学習指導要領の改訂に伴って新たに学習することになった内容を踏まえたものであり、正答率は約6割であった。(3)アは、光の屈折による現象を選ぶ問題で、正答率が約4割であった。誤答としては「3」の乱反射を選んだものが多く、光に関する現象を理解できていなかったものと思われる。(3)イは、光の屈折による道すじを表現する問題で、正答率は約3割であった。誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。(4)アは、交流についての理解をみる問題で、正答率は約7割、(4)イは、電力量について計算する問題で、正答率は約4割であった。電気使用量324kWhを30日で割って「10.8時間」としたものなど、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。化学や物理的現象についての基礎的な知識は概ね身に付いていると思われるが、科学的な見方や考え方、結果を分析して解釈する力を養っていく必要がある。

③は、だ液の働きと性質に関する問題である。(1)アは、対照実験についての理解をみる問題で、正答率は約9割、(1)イはだ液の働きについて実験結果からわかることを記述する問題で、正答率は約5割であった。(2)アは、ベネジクト液を加えた実験操作についての問題で、正答率は約7割であった。(2)イは、だ液の働きによるデンプンの変化を考察するために比べる試験管の組み合わせを選ぶ問題で、X、Yの正答率はそれぞれ約8割、7割であった。(3)は、デンプンの消化・吸収・貯蔵・運搬について適切な語を入れる問題で、、、の正答率はそれぞれ約8割、7割、4割であった。の誤答としては「心臓」が多かった。

④は、気体の発生に関する問題である。(1)は、気体が発生する化学変化を選ぶ問題で、正答率は約6割であった。(2)アは、二酸化炭素の化学式を記述する問題で、正答率は約9割、(2)イは、水上置換法に関する問題で、正答率は約8割、(2)ウは、二酸化炭素の性質についての問題で、正答率は約9割であり、日ごろの学習の成果が見られた。(3)アは、反応前後の石灰石の質量の関係をグラフで表現する問題で、正答率は約1割であった。反応前後の石灰石の質量の関係を正しく表現できていない誤答が多く、無解答も多かつ



た。(3)イは、塩酸の体積と石灰石の質量を変えたときに発生する二酸化炭素の質量を求める問題で、正答率は約2割であった。石灰石1.00gのときに発生した二酸化炭素の質量0.44gに8.00gを掛けて「3.52g」としたものなど、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。反応する塩酸の体積と石灰石の質量を見いだして、発生する二酸化炭素の質量について数値を適切に処理することができなかつたものと思われる。

〔5〕は、小球の運動とエネルギーの関係を調べる実験に関する問題である。(1)アは、等速直線運動についての理解をみる問題で、正答率は約9割であった。(1)イは、実験結果から小球の速さを求める問題で、正答率は約3割であった。高さ5cmのときの0.0秒から0.1秒の間に移動した距離2.0cmを0.1秒で割って「20cm/s」としたものなど、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。(2)は、小球の速さと運動エネルギーの関係についての理解を見る問題で、正解率は約5割であった。(3)アは、位置エネルギーに関する問題で、正答率は約8割であった。(3)イは、実験結果をもとに、小球をはなした高さや木片の移動距離の関係をグラフで表現する問題で、正答率は約5割であった。

〔6〕は、天体の運動に関する問題である。(1)アは、天球についての理解をみる問題で、正答率は約6割であった。(1)イは、天頂の星の動きを考える問題で、正答率は約3割であった。南の空の星の動きである「1」とした誤答が多く、天頂付近の星の動きを理解できていなかったものと思われる。(1)ウは、星の日周運動についての問題で、正答率は約7割であった。(2)アは、秋分の日における地球の位置を選ぶ問題で、正答率は約7割であった。(2)イは、見える星座の、時間経過に伴う変化に関する問題で、正答率は約3割であった。「しし座」や「かに座」とした誤答が多く、日周運動や年周運動を関連付けて理解することができていなかったものと思われる。

理科では、観察、実験の内容や結果を正確に読み取って考察する力や、グラフや表から得られた複数の情報を目的に応じて整理し活用する力に加え、科学的に思考・判断し、その過程を含め、適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 理科

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)				
〔1〕	(1)	植物のつくりと働き	ア	2	〔4〕	気体の発生	(1)	2			
			イ	1			ア	2			
			イ	1			イ	3			
			イ	1			ウ	3			
	(2)	生態系	生態系	67.0	(3)	ア	3	反応前後の石灰石の質量の関係	12.9		
			自然界のつり合い	89.3			イ	4	発生する二酸化炭素の質量	15.0	
	(3)	火成岩	有色鉱物	58.7	〔5〕	小球の運動とエネルギー	(1)	ア	2	等速直線運動	87.4
			花こう岩	61.9			イ	3	小球の速さ	32.1	
	(4)	天気の変化	寒冷前線が通過した日時	64.5			(2)	イ	3	小球の速さと運動エネルギーの関係	48.9
			空気中に含まれる水蒸気量	52.1					ア	3	位置エネルギー
	〔2〕	(1)	混合物の加熱	NaClとNaHCO <sub>3</sub> の混合物の加熱	23.0	〔6〕	天体の運動	ア	2	天球	56.8
				イ	3				イ	4	天頂の星の動き
(2)		金属の陽イオンへのなりやすさ	イオンの化学式	60.0	(1)			イ	3	星の日周運動	67.1
			金属の陽イオンへのなりやすさ	61.8					ウ	3	秋分の日地球の位置
(3)		光の性質	光の屈折	35.3	(2)	ア	3	見える星座の時間経過に伴う変化	30.8		
			光の屈折による道すじ	29.0			イ	4			
(4)		交流と電力量	交流	67.4							
			電力量	34.9							
〔3〕		(1)	対照実験	対照実験	85.6						
				だ液の働き	46.5						
				ペネジクト液を加えた実験操作	73.6						
		(2)	だ液の働きと性質	だ液の働きによるデンプンの変化	81.7						
				72.9							
	(3)	デンプンの消化・吸収・貯蔵・運搬		81.6							
				71.8							
				43.7							

## 英 語

①は、放送による問題である。(1)は、英語による説明と質問を聞いて適切な絵や表現を選ぶ問題で、正答率は、アが約8割、イが約7割、ウが約6割であった。(2)は、中学生の「家族」に関するスピーチを聞いて、その内容についての質問に答える問題で、アの正答率は9割を上回り、イの正答率は約6割、ウの正答率は約8割であった。(3)は、対話を聞いて、その内容についての質問に対する適切な応答を選ぶ問題で、正答率は、アが約8割、イが約7割であった。(4)は、外国語指導助手の話を受けて、質問に対する自分の考えを適切に英文で表現する問題である。誤答としては、内容の理解が不十分なものや、具体的な行動が書かれていないものが見られた。問いの内容を正しく理解した上で、自分の考えを適切に英語で表現する力を高めていく必要があると思われる。

②は、中学生とアメリカ人留学生による、「アメリカと日本の硬貨」についての対話を題材とした問題である。(1)は、英文の意味が通るように、与えられた語を並べかえる問題であり、正答率は、アが約8割、イが約3割、ウが約6割であった。アは、「show + 間接目的語 + 名詞」を問う問題であり、この形は概ね定着しているようである。イは、「wh-疑問文」と「受け身」を問う問題である。「疑問詞 + 名詞」及び「受け身」の理解が十分でないと思われる誤答が多かった。ウは、「仮定法のうち基本的なもの」を問う問題である。語順を「could you」とした誤答が複数見られ、仮定法の用法や意味の理解が十分ではないと思われる。(2)は、対話の流れから「kinds」を空所に入れる問題で、正答率は約2割であった。「coins」や「cent」などの誤答が多く見られた。(3)は、下線部の日本語を英語に直す問題である。1では、「主語 + 動詞 + 疑問詞で始まる節」における「疑問詞で始まる節」の構造についての理解が十分ではないと思われる誤答が多かった。2では、基本的文構造及び「不定詞の形容詞的用法」についての理解が十分ではないと思われる誤答が多かった。基本的な文法事項を適切に組み合わせて表現する力を育てていくことが大切である。

③は、中学生と台湾からの留学生による、「贈り物の包み方」についての対話を題材とした問題である。(1)は、対話が成立するように空所に入る適切な表現を英語で書く問題であり、正答率は、アが約3割、イが約4割であった。アは、本文の展開を捉えていないことによる内容の不一致と、文構造や文法事項の理解が十分ではないと思われる誤答が見られた。部分的に判断するのではなく、文章全体の概要を把握しながら読み進めることが求められる。(2)は、本文中の空所に入る最も適切な英文を選び、対話を成立させる問題である。Aの正答率は約5割、BとCの正答率はそれぞれ約4割であった。対話の内容を理解し、流れに即したやりとりができるように、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の技能統合的な課題に日常的に取り組んでいくことが求められる。

④は、中学生が自身のお気に入りのものとして、エリック・カールが書いたアメリカの絵本『はらぺこあおむし』を紹介するスピーチを題材とした問題である。(1)は、スピーチの内容に合うように、日本語の要約文の空所に適切な語を書く問題で、正答率は、アが約7割、イは約9割、ウは約8割であった。(2)は、本文の内容に関する英語の質問に英語で答える問題である。正答率は、1が約6割、2が約4割、3が約6割であった。1は、主語が異なっている誤答が多く、2は、代名詞を正しく用いていない誤答が多かった。3は、主語の取り違えや、異なる時制を用いたことによる誤答が多かった。(3)は、「自分のお気に入りのもの」について、簡単な語句や文を用いて、自分自身の考えをまとまりのある英文で書く問題である。名詞の

単数形と複数形が混在していて、さらにそれに対して用いた動詞の形が一致していない誤答が多く見られた。また、前置詞を正しく使用できていないことによる誤答や、目的語が抜けていることによる誤答も見られた。日常的な話題について、自分の考えや気持ちなどを整理して、文と文のつながりに配慮しながら、まとまりのある内容を英語で表現する活動を継続して行っていくことが大切である。

⑤は、中学生の弟が、高校生の姉との「虹」についての会話をきっかけに、「あらゆる学びは相互に関係している」ということに気づいていくという、日常的な場面での対話を題材とした問題である。(1)は、本文の内容と合うように、与えられた書き出しに続く適切な英文を選ぶ問題である。正答率は、アが約6割、イが約4割、ウが約3割、エが約4割であった。英文の一部分を解答の根拠とするのではなく、文章全体の展開を追って概要を把握していく必要がある。(2)は、下線部の内容を日本語で説明する問題である。解答箇所の特定はできているものの、「different ways of feeling」を正しく訳せなかったことによる誤答が多かった。(3)は、本文の内容をふまえて、英語の要約文の空所に入る適切な語を選び、要約を完成させる問題である。正答率は、アが約7割、イが約3割、ウが約5割であった。この問題も、英文を部分的に捉えるのではなく、文章全体の概要を把握する力が求められる。

英語では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、英文の概要や要点を正確に理解する力や、自分の考えや気持ちなどについて、状況に合わせて、まとまりのある文章で適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 英語

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)			
①	(1)	ア 3	83.2	④	ア 2	スピーチの内容に合うように、日本語の要約文の空所に適切な日本語を書く。	67.7			
		イ 3	69.0				イ 2	88.8		
		ウ 3	62.4				ウ 2	77.5		
	リスニング	ア 3	94.5		イ 3		56.4			
		イ 3	59.7		ウ 3		37.0			
		ウ 3	76.4		平均点		56.8			
	(3)	ア 3	77.0		(3)	6	20語以上の英語で、自分の考えを書く。	平均点	2.6	
		イ 3	70.0							
	(4)	3	英文と質問を聞いて、それに対する自分の考えを英語で書く。		平均点	0.8				
	②	(1)	ア 2		76.4	⑤	ア 3	本文の内容と合うように、与えられた書き出しに続く適切な英文を選ぶ。	54.9	
			イ 2		32.4				イ 3	37.1
			ウ 2		57.5				ウ 3	31.7
ライティング		(2)	2	本文内容に合うように、本文中の空所に適切な英語を書く。	19.1		平均点	43.4		
		1 3	平均点	1.2	(2)		4	下線部の内容を日本語で説明する。	平均点	1.3
(3)		2 3	下線部の日本語を英語に直す。	平均点	0.9		ア 3	本文の内容と合うように、英語の要約文の空所に入る適切な語を選ぶ。	71.1	
③	(1)	ア 2	28.6	ライティング	イ 3	本文の内容と合うように、英語の要約文の空所に入る適切な語を選ぶ。	25.4			
		イ 2	36.8				ウ 3	50.3		
	(2)	A 3	49.6							
		B 3	43.0							
	C 3	38.1								